

1997/5

Vol. 4

石川県リハビリテーションセンターニュース

平成9年度研修事業実施計画

◇本年度の研修予定はつぎのとおりですので、年間計画を立てる際の参考にしてください。

◇実施要領は、研修日のおよそ1カ月前までに対象者の所属機関・施設へご案内します。

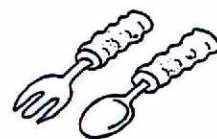
◇研修内容・その他詳細は当センターへお問い合わせください。

月 日 (曜日)	研 修 名 (テーマ) 研 修 内 容	講 師 (予定)	対 象 者
6月21日 (土)	第16回リハビリテーション研修 (リハビリ医療技術者研修) 諸外国に於けるバリアフリー	石川県リハビリテーションセンター次長 リハ専門医 岸谷 都氏	PT、OT等
7月5日 (土)	第17回リハビリテーション研修 (リハビリ医療技術者研修) ファンクショナルテーピング	井戸田病院 スポーツ医科学研究所 近藤 仁氏	PT等
	身障者の自動車運転について	神奈川リハビリテーションセンター (講師未定)	OT等
8月2日 (土)	第9回障害者日常生活補助具製作研修 補助具の簡単な製作方法や市販品の改良方法について	リハセンター職員	主に福祉施設職員
8月30日 (土)	第18回リハビリテーション研修 (リハビリ医療技術者研修) リハビリテーションにおける社会福祉援助について	県外講師 (未定)	ソーシャルワーカー その他関係職種
9月6日 (土)	第19回リハビリテーション研修 (リハビリ医療技術者研修) 神経筋疾患のリハビリテーション	スウェーデンヨーテボリ大学 リハビリ科教授 グンナーグリーンビー氏	リハビリ医療関係者等
9月27日 (土)	第20回リハビリテーション研修 (バリアフリー推進工房研修会)	(未定)	リハビリ関係者・その他一般
10月4日 (土)	第10回障害者日常生活補助具製作研修 補助具の簡単な製作方法や市販品の改良方法について	リハセンター職員	県市町村の保健婦
11月8日 (土)	第11回障害者日常生活補助具製作研修 補助具の簡単な製作方法や市販品の改良方法について	リハセンター職員	県市町村の保健婦、福祉施設職員
12月6日 (土)	第21回リハビリテーション研修 (リハビリ医療技術者研修) 運動性構音障害について	県外講師 (未定)	言語療法士等
平成10年 1月23日 (土)	第22回リハビリテーション研修 (リハビリ医療技術者研修) 障害者のための住宅と自立支援機器 partⅢ	リハセンター職員その他	PT、OT保健婦等
2月20日 (土)	第23回リハビリテーション研修 (リハビリ医療技術者研修) 脳血管障害患者に対する理学療法	県外講師 (未定)	PT等
	排泄動作の支援について	県外講師 (未定)	OT等
3月7日 (土)	第12回障害者日常生活補助具製作研修 補助具の簡単な製作方法や市販品の改良方法について	県外講師 (未定)	OT、その他関係職種

※6月から電話番号が変更になります TEL (076) 266-2860 FAX (076) 266-2864



福祉用具の開発普及に関する アンケートについて



当センターでは、今後の福祉用具の開発普及促進のために現状と問題点を把握する目的で、アンケート調査を実施しました。

調査は県内の病院・施設等のPT、OT、看護婦、介護福祉士、ホームヘルパー、ソーシャルワーカー及び障害者団体の方々100名にお願いしました。

その結果の概要は以下のとおりです。

1. 福祉用具についての情報収集は9割以上の人がやっているが、情報が十分あると感じている人はわずかであった。
2. カタログでの情報収集や情報提供が最も多かったが、実際に試したうえで紹介したほうが良い（現実には試用機会が少ない為）と言う意見が多くあった。また、「値段が高くて紹介しにくい」という意見が9割近くあった。
3. 福祉用具の提供にあたり、約8割の人は公的な給付・貸与制度を利用しているが、そのうちで「手続きに時間がかかる」「適用条件が厳しい」等の問題点を感じている人が半数近くいた。
4. 福祉用具の製作・改良については、新製品の開発より障害の程度に応じた個別の調整の必要性を感じている人が多かった。

実際に製作・改良を行うとする場合、材料や製品化のノウハウの情報がないと言う意見が多く、今後ニーズと技術をつなぐ情報センターの設置を望む声が高かった。

5. 今後の福祉用具の普及のために、公的補助の拡大や給付貸与時の手続きの簡略化を望む意見が多かった。



この結果をもとに、今後当センターでも福祉用具の開発普及に関する問題点の整理と解決に向けての方策に取り組んでいきたいと思えます。

(関係者の皆様にはご協力ありがとうございました。)



身体障害者更正相談所との連携

リハビリテーションセンターの岸谷 都次長（リハ専門医）は、本年4月から石川県身体障害者更正相談所において補装具（電動車いす）の判定医を担当しています。障害のある方が、電動車いすを利用することによって、少しでも快適な生活を送ることが出来るようになり、もっともっと軽快で“カッコイイ”と云われるような電動車いすの開発に向けて、リハビリテーションセンターのノウハウと身体障害者更正相談所の役割の連携が円滑になるよう、活躍が期待されます。

インターネットで利用者ニーズを探る

バリアフリー推進工房では、福祉機器に関するさまざまな情報を集め、利用者ニーズを探ります。福祉機器の適正評価や改良のお手伝いもします。どんなことでもご相談ください。

—— インターネットでお気軽にどうぞ ——

◇ E-mailのアドレス iprc@po.incl.or.jp

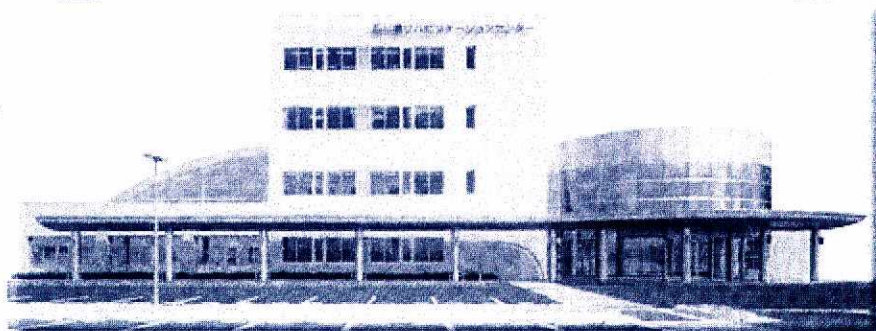
◇ ホームページのアドレス <http://www.pref.ishikawa.jp/eisei/rihabiri/index.htm1>



Ishikawa Prefectural Rehabilitation Center



Ishikawa Prefectural Rehabilitation Center
石川県リハビリテーションセンター
バリアフリー推進工房



明るい未来 限りない希望
そして強く大きな気持ちを抱いて

リハビリテーションセンター

バリアフリー推進工房

連絡先&交通案内

自動車運転シミュレーション装置

身体に障害を持たれた方でも行動範囲を広げ、より活動的な社会生活を送るために自動車を運転したいというニーズは益々高まってきています。

当センターの自動車運転シミュレーション装置は運転に必要な能力の評価や、訓練を屋内で行える装置です。装置には、それぞれの障害に応じた部品を取付け、実際の運転を体験することが可能です。具体的には、片麻痺者用のハンドル回旋ノブ、左手用方向指示器、左足アクセルや脊髄損傷など下半身麻痺者用のAPドライブ（手でアクセル、ブレーキが操作できる装置）、骨形成不全などでアクセルに足が届かない方用の補高アクセル、ブレーキ、その他を簡単に取付け、運転操作訓練ができます。また運転に必要な能力評価としてハンドル回旋力、アクセル・ブレーキ踏力、アクセル・ブレーキ踏み換え反応時間などが一定の判定基準を満たしているかどうかの測定が可能です。また、瞬時視力、移動視力という自動車運転に必要な特殊な視力検査を行うこともできます。

新たに運転免許を取得する方が、障害を持っていても運転が可能かどうかを知りたい場合や、既に運転免許を持っていても、事故や病気で身体に障害が残っている方が、再び運転することに不安がある場合などに、適正な評価を得るために利用することができます。

病院の臨床評価に利用することもできますので、作業療法上にご相談ください。



虹の窓から

—アイデアコンテスト開催— 岸谷 都

昨年4月に誕生した「バリアフリー推進工房」。いったい何？

福祉機器を使う人、紹介し評価する人（リハスタッフ、工学技師）、作る人（企業）が連携し、よいものを生み出すための知恵袋と考えてください。

2頁のアンケート結果でも、必要な人に情報が届いていない。ニーズが企業に届いていない。という実態が明らかになりました。しかし生のニーズをそのまま企業に投げかけても何も生まれません。かみ砕き、通訳し、形にしやすくするのがバリアフリー推進工房の役割です。

昨年バリアフリーアイデアコンテストを開催したところ、応募作品、アイデアには、多くの人の知恵が集まりました。いくつかのアイデアがきっかけで形にする作業を行っているところです。

しかし、使う人が気持ちよくそれを使えるという、最も基本的な姿勢を大切にしていきたいと思います。今年度もアイデアコンテストを開催しますので、多数の応募をお待ちしています。

編集・発行

石川県リハビリテーションセンター
〒920-03
金沢市赤土町=13-1
TEL (076) 266-2860
FAX (076) 266-2864
E-mail iprc@po.incl.or.jp

※6月から電話番号が変更になります TEL (076) 266-2860 FAX (076) 266-2864